

1. 位置及び地勢

当組合は、愛知県の西部に位置し、東経136°46'27"、北緯35°4'51"で、東は名古屋市及び蟹江町、西は木曾川並びに三重県、北は佐屋町及び立田村に接し、南は伊勢湾に面し、昭和48年4月1日に発足した1町2村からなる一部事務組合です。

地勢は、木曾川によって造成された沖積層からなり、海拔0メートル地帯で、東西6.4km、南北15.2km、総面積70.55km²の南北に細長い地形を有している地域です。

昭和34年9月26日未曾有の伊勢湾台風による堤防の破壊により大浸水を被り、多大な人的物的な被害を受けた地域でもあります。

道路、鉄道共に逐次整備され、主幹道路として国道1号線及び東名阪自動車道が北部を、国道23号線が南部を横断し、国道155号線が西部を、国道302号線が東部を横断しています。また、南部臨海部には「名港トリトン」の愛称で親しまれている伊勢湾岸自動車道が、名古屋から延び東名阪自動車道と接続されたことにより、道路網の要衝である地域です。鉄道は、管内北部にJR関西本線、名鉄尾西線及び近鉄名古屋線の弥富駅があり、相互に乗換えが可能で、名古屋までは15分と大変至近にある地域です。

名古屋市に隣接していることもあり、管内北部は鉄道網に関して高層住宅や住宅団地等の住宅地、中部は田園地帯、南部は港湾の関係で石油コンビナートや木材、鉄鋼、造船等に関連した工業地帯があり、さらにはコンテナ埠頭の一大物流基地が増設され、名古屋港の貿易の拠点として活性化が進んでいる地域です。

以上、管内は多種多様な地域が混在しています。



2 . 構成町村の概要

(平成15年4月1日現在)

項目 区分 町村名	人 口		世 帯 数		面 積	
	数 値	構 成 比	数 値	構 成 比	数 値	構 成 比
十 四 山 村	人 5,869	% 12.2	戸 1,567	% 10.3	k m ² 9.97	% 14.1
飛 島 村	4,634	9.7	1,237	8.2	22.50	31.9
弥 富 町	37,439	78.1	12,337	81.5	38.08	54.0
合 計	47,942	100.0	15,141	100.0	70.55	100.0

3. 組合のあゆみ

昭和48年	4月	1日	十四山村、飛島村、弥富町の1町2村で海部南部消防組合を設立 消防本部を設置、救急業務のみを開始 仮事務所を弥富町役場内に置く 指揮車(無線付) 1台(弥富ライオンズクラブより寄贈) 救急車(無線付) 1台 - B型
昭和48年	4月	12日	消防署庁舎用地取得 10,396㎡ 海部郡飛島村大字大宝新田字サノ割555-6番地
昭和48年	9月	1日	消防署を設置 消防業務を開始 初代消防署長 伊藤一男 就任 普通消防ポンプ自動車(無線付) 1台配備 小型動力ポンプ 1台配備
昭和48年	11月	1日	水槽付消防ポンプ自動車(無線付) 1台配備
昭和48年	12月	17日	消防庁舎竣工 鉄筋コンクリート造3階建 延床面積 1,502㎡ 海部郡飛島村大字大宝新田字サノ割555-6番地 救急指令装置B型設置
昭和48年	12月	20日	新庁舎へ移転し業務開始 弥富町役場の仮事務所閉鎖
昭和49年	2月	23日	消防庁舎竣工式
昭和49年	3月	1日	救急車(無線付) 1台配備 - B型 連絡車(無線付) 1台配備
昭和49年	4月	1日	海部南部危険物安全協会結成
昭和49年	10月	24日	広報車(無線付) 1台(宇佐美鋳油店より寄贈)
昭和50年	4月	1日	海部南部消防連絡協議会結成
昭和50年	4月	22日	普通消防ポンプ自動車 1台(日本損害保険協会より寄贈)
昭和51年	3月	12日	各町村消防団本部車両(消防ポンプ自動車)無線機配備
昭和51年	7月	14日	飛島村東浜三丁目2~5番地の区域が石油コンビナート等特別 防災区域に指定(名古屋港臨海地区)
昭和52年	4月	12日	消防本部庁舎3階に機械器具展示室設置腕用ポンプ、手引き動力 ポンプ、消火器等(管内地区、防災関係業者より寄贈)
昭和52年	9月	17日	船外機付舟艇 1艇配備 連絡車 更新
昭和54年	2月	7日	バスケット付大型高所放水車(無線付) 1台配備
昭和54年	4月	1日	消防力充実のため総合計画を樹立
昭和55年	2月	8日	大型化学車(無線付) 1台配備
昭和55年	9月	8日	大型車両配備に伴ない車庫及び倉庫を増設 鉄骨造2階建 262㎡
昭和55年	12月	19日	泡原液搬送車(無線付) 1台配備
昭和56年	2月	24日	北分署庁舎用地取得 5,055㎡ 海部郡弥富町大字鎌倉123番地

昭和56年12月15日 北分署庁舎竣工
鉄筋コンクリート造2階建 延床面積 753m²
北分署業務開始
普通消防ポンプ自動車、救急車、広報車、各1台配備
分署長以下15名の職員

昭和57年 5月31日 広報車(無線付) 1台 本署に配備

昭和57年11月13日 水槽付消防ポンプ自動車(無線付)
本署 1台更新 分署 1台配備

昭和58年 1月18日 救急車(無線付) 1台 - B型 北分署に配備
(日本自動車工業会より寄贈)

昭和58年 4月 1日 総合計画に基づく3ヶ年実施計画を樹立
北分署4名増員

昭和58年 6月23日 本署 指令車(無線付) 1台更新

昭和58年 6月25日 本署庁舎改修工事を施行

昭和58年 9月 1日 訓練人形(レサシアン) 1体(弥富ライオンズクラブより寄贈)

昭和58年12月20日 本署 車庫増築 鉄骨造 51m²

昭和59年 3月30日 本署 救急車(無線付) 1台更新 - B型

昭和59年 4月 1日 北分署4名増員

昭和59年 6月 8日 査察車(無線付) 1台本署に配備
(海部南部危険物安全協会より寄贈)

昭和59年 8月15日 船外機付舟艇 1艇北分署に配備

昭和59年10月24日 北分署 広報車(無線付) 1台本署に配備

昭和60年 1月 1日 常勤専任消防長 伊藤一男 消防署長兼任

昭和60年 4月 1日 二代目消防長 都築 勇 就任
二代目消防署長 加藤敏男 就任

昭和60年10月22日 本署 普通消防ポンプ自動車(無線付) 1台更新
(日本損害保険協会より寄贈)

昭和60年11月 1日 土地改良事業により本換地完了につき住所更正
海部郡飛島村大宝五丁目182番地

昭和61年 4月 1日 消防計画10ヶ年計画樹立
上記計画に基づく3ヶ年実施計画樹立

昭和61年11月 1日 仮称南部出張所業務開始
海部郡飛島村木場二丁目3番地

昭和62年 2月26日 救助工作車(無線付) 1台本署に配備

昭和63年 4月 1日 南出張所業務開始
救急車(無線付) 1台 - B型 南出張所に配備

昭和63年 6月 2日 北分署 出動灯設置(弥富ライオンズクラブより寄贈)

昭和63年 8月19日 第17回全国消防救助技術大会(横浜市)
はしご登はん 小椋正巳 出場

昭和63年 8月30日 本署 出動灯・投光器設置

昭和63年 9月22日 高所放水車 オーバーホール

昭和63年12月15日 本署 連絡車(無線付) 更新

平成元年 4月 1日 三代目消防署長 青木善盛 就任
総合計画に基づく3ヶ年実施計画を樹立

平成元年 9月27日 資機材搬送車(無線付) 1台本署に配備

平成 2年 3月20日 北分署 普通消防ポンプ自動車(無線付) 1台更新

平成 2年 8月24日 第19回全国消防救助技術大会(広島市)
はしご登はん 八木雄司 出場

平成 3年 1月21日 船外機付舟艇 1艇本署に配備

平成 3年 1月31日 消防庁舎増改築
鉄骨造3階建 床面積84㎡

平成 4年 2月19日 消防緊急通信指令施設 型(旧指令装置B型)を更新

平成 4年 3月 4日 本署 水槽付消防ポンプ自動車(無線付) 1台配備

平成 4年 3月19日 緊急通報システム(高齢者在宅福祉事業)センターを設置

平成 4年 4月 1日 海部南部消防組規約改正に伴ない副管理者制を導入
総合計画に基づく3ヶ年実施計画を樹立

平成 5年 1月 1日 完全週休二日制を実施

平成 5年 1月 6日 本署 指揮車(無線付) 1台配備

平成 5年 1月 8日 海部南部消防組合発足20周年記念式典を実施
海部南部消防組合発足20周年記念誌を作製

平成 5年 1月28日 県道の拡幅により土地売却(売却面積790㎡)

平成 5年 2月 9日 北分署 広報塔を設置(弥富ライオンズクラブより寄贈)

平成 5年 8月20日 第21回全国消防救助技術大会(福岡市)
はしご登はん 八木雄司、立松健一 出場

平成 6年 3月10日 北分署 救急車(無線付)更新 - B型

平成 6年 3月18日 本署 訓練場を拡張 4,129㎡
交替制勤務者の三部制を実施

平成 6年 5月24日 査察車(無線付) 1台本署に配備(海部南部危険物安全協会
より寄贈)

平成 6年11月18日 救急救命士誕生

平成 7年 2月28日 高規格救急車(無線付) 1台本署に配備

平成 7年 3月30日 本署 査察車(無線付) 更新

平成 7年 4月 1日 四代目消防署長 山田幸雄 就任
愛知県海部事務所へ実務研修生として1名派遣
(平成8年3月31日まで)

平成 7年12月20日 高所放水車2回目のオーバーホール

平成 8年 2月29日 北分署 広報車(無線付) 更新

平成 8年 3月15日 南出張所庁舎増改築
鉄骨造2階建 延床面積 224㎡

平成 8年 4月 1日 南出張所業務開始
水槽付消防ポンプ自動車、救急車、査察車、各1台配備
出張所長以下10名の職員
総合計画に基づく消防力整備計画
(平成8年度から平成17年度)を樹立

平成 8年 4月 1日 愛知県消防学校へ教官として1名派遣(平成10年3月31日まで)

平成 8年11月26日 小型動力ポンプ 1台本署に配備

平成 8年12月16日 小型動力ポンプ 北分署及び南出張所に1台配備

平成 9年 2月 6日 小型動力ポンプ付水槽車(無線付) 1台本署に配備
泡原液搬送車 本署から北分署へ配置替

平成 9年 4月 1日 総合計画に基づく3ヶ年実施計画を樹立
愛知県消防協会へ実務研修生として職員1名派遣
(平成11年3月31日まで)

平成 9年 8月22日 第26回全国消防救助技術大会(千葉市)
ロープブリッジ渡過 細木健治 出場

平成10年 1月 9日 北分署庁舎改修工事

平成10年 1月16日 高規格救急車(無線付) 1台分署に配備

平成10年 3月 8日 資機材搬送車 1台本署に配備(弥富ライオンズクラブより寄贈)

平成10年 4月 1日 職員相互人事交流を開始(海部東部消防組合)

平成10年 8月28日 第27回全国消防救助技術大会(大阪市)2種目出場
ロープブリッジ渡過 細木健治
ロープブリッジ救出 瀬古公春、吉田政登、岡田憲和、馬場貴浩

平成10年 9月28日 本署 連絡車 更新

平成10年11月25日 本署 梯子等収納庫増設

平成10年12月18日 消防緊急通信指令施設をオーバーホール

平成11年 2月22日 本署 水槽付消防ポンプ自動車(無線付) 更新

平成11年 3月 4日 南出張所 査察車(無線付) 更新(十四山村より寄贈)

平成11年 4月 1日 五代目消防署長 平野 豊 就任
職員相互人事交流を実施(海部東部消防組合、蟹江町)

平成11年 8月19日 第28回全国消防救助技術大会(横浜市)
ロープブリッジ救出 瀬古公春、吉田政登、岡田憲和、馬場貴浩

平成12年 2月10日 北分署 水槽付消防ポンプ自動車(無線付) 更新
((社)日本損害保険協会より寄贈)

平成12年 2月29日 本署 消防ポンプ自動車(無線付) 更新

平成12年 4月 1日 三代目消防長 平野 豊 就任
六代目消防署長 佐藤 武 就任
愛知県消防防災課へ実務研修生として職員1名派遣
(平成13年3月31日まで)
職員相互人事交流を実施(津島市、蟹江町、海部東部消防組合)
総合計画に基づく3ヶ年実施計画を樹立

平成12年12月19日 資機材搬送車(無線付) 更新

平成13年 4月 1日 四代目消防長 佐藤 武 就任
七代目消防署長 加藤寛一 就任
職員相互人事交流を実施(津島市、蟹江町、海部東部消防組合)

平成13年 8月 8日 第30回全国消防救助技術大会(東京)
はしご登はん 佐藤弘光 出場

平成13年12月19日 本署 高所放水車（無線付） 更新
平成14年 4月 1日 職員相互人事交流を実施（津島市、蟹江町、海部東部消防組合）
愛知県消防防災ヘリコプターへ職員1名派遣（2年間）
平成14年 8月23日 第31回全国消防救助技術大会 名古屋市（2種目出場）
はしご登はん 佐藤弘光
ロープブリッジ渡過 飯田祐治
平成14年 9月 1日 名古屋市消防局へ職員1名派遣（平成16年3月まで）
平成14年12月25日 本署 大型化学車（無線付） 更新
平成15年 4月 1日 職員相互人事交流を実施（津島市、蟹江町、海部東部消防組合）
北分署3名増員
総合計画に基づく3ヶ年実施計画を樹立